

Scoop

2002年6月

シティ

ホンダ

フィット派生セダン「シティ」

HONDA

得意としていたスポーティカーのカゲに隠れてしまい、ミニバン専門会社と呼んでも過言ではないホンダ。世界各国の市場に見合ったクルマを現地生産する計画を推し進め、及び腰の他社を差し置いて中国進出を敢行した。この先もニッチ商品で未開拓マーケットをモノにしていく。



[↑ zoom](#)

タイ & 中国生産のアジアカー破格値で日本上陸も実現へ
フィットのグローバル・スモール・プラットフォームをベースに、オーソドックスな3ボックス・フォルムをまとめて登場する次期シティ。日本でも輸入販売される可能性が高い。

ホンダはタイでフィット・ベースのアジアカーを作り、日本でも03年早々に売り出す計画を進めている。開発コード「A X」は96年に発売されたアジアカー「シティ」の後継車であり、これまでに「排気量は1・3リットルクラス」「20km / リットル以上の低燃費・低公害型エンジンを搭載」「価格は100万円台前半」といったことが明らかになっている。ボディタイプは3ボックスセダンの線が濃厚だ。

“メード・イン・タイランド”の日本上陸だけでもビッグニュースなのに、ホンダはその先も考えていた。ズバリ、中国生産だ。新聞報道などによると、広州に乗用車の第2工場を建設する方向で中国政府と交渉に入っているという。

その結果、04年にも年間10万台規模の生産が始まる予定だが、この工場は中国の内需に対応するとともに、日本を含む海外への輸出拠点としても活用されていく。“メード・イン・タイランド”の1年後には、早くも“メード・イン・チャイナ”のスモールカーが破格の値段で国内投入される可能性だってあるのだ。

これまでのアジアカーと言えば、生産しやすい小型セダンで、言ってみれば“10年前の日本車”みたいなシロモノが多かった。しかし、ホンダがタイや中

国で生産するアジアカーは、燃料タンクが運転席下に収められたグローバル・スモール・プラットフォームを持つフィットがベースとなる。使い勝手の良さ
とフィットの車両価格106万5000～144万円を下回る破格値でスモールカー市場の台風の目になることは間違いだろう。

[▲ 戻る](#)

